

授業改善推進プラン

第6学年

東大和市立第七小学校

学習規律等	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して、最後まで話を聞く。 ・授業開始前に学習用具を整える。 ・家庭学習を確実に行う。(学年×10分) ・最後まで粘り強く学習活動に取り組む。 ・対話を通して、自己の学習を広げ、深める。 		
	今年度の課題 (育てたい資質・能力)	具体的な授業改善 (主体的・対話的で深い学びの視点を中心に)	評価
国語	○知識及び技能 語彙力に乏しい傾向があり、文章の構成や読み取りに苦手意識がある。既習事項を振り返り、語彙を広げるようにする。	・新出漢字の学習と漢字の小テストを継続的に行うとともに、ノートや作文を書く際に習った漢字を使うように指導し、語彙力を高める。図書の時間では一人でじっくりと読書をする時間を確保し、活字に触れる機会を増やす。	・
算数	○思考力・判断力・表現力等 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に応じて多様な表現方法を用いることに苦手意識がある。考えの交流を図り、自分なりに数の表し方や計算の仕方を考察できるようにする。	・問題解決の様々な考え方を交流することで、よりよい解決方法を見出すことができるようにする。 ・東京ベーシックドリルや定着度テストの結果を基に、計算ドリルやデジタルドリル等に繰り返し取り組み、既習事項の習熟度を高める。	・
社会	○学びに向かう力、人間性等 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることに苦手意識がある。学習問題や学習計画を立て、調べたことを選択・判断し、議論するなど、地域の一員としての自覚を持ち、社会に参画しようとする意識を育てる。	・学習意欲を高めるために、資料提示の工夫をする。 ・児童とともに単元の学習問題を立て、自分なりに学習計画を選択し、課題を解決する能力の向上を図る。	・
理科	○知識及び技能 観察・実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択することに苦手意識がある。学習計画を立て、自分なりに観察・実験方法を考え、器具や機器などの使い方が創意工夫できるようにする。	・授業の中で既習の用語を繰り返し使ったり、観察・実験方法を自分なりに考え、選択したりするなど、知識の定着を図る。 ・実験器具の使い方を、実践を通して繰り返し指導する。	・
家庭	○知識及び技能 家庭生活における自己の役割を把握し、実践することに苦手意識がある。裁縫や調理などの基本的な技能の定着を図るとともに健康的な家庭生活を営む知識を身に付ける。	・裁縫や調理の基本的な技能が定着できるように実習を設定する。 ・学んだことを家庭で実践する機会を設け、生活に生かせるようにする。	・
体育	○知識及び技能 体力や技能に関して、個人差が激しい。各種の運動の行い方について理解し、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	・場の工夫、学習計画の工夫により、段階的に技能が身に付けられるようにする。	・

